

TOPICS
4

トピックス…④

総需要量に規程される

わが国のチーズ自給率

平成24年度のチーズ需要量全体に占める国産の割合（ナチュラルチーズベース）は、前年度から0.7ポイント低下し、16.4%となった。わが国のチーズ自給率は、総需要量の変化に大きな影響を受けている。

平成24年度の国産ナチュラルチーズ生産量は、前年度をやや上回る46,525トン（前年度比2.4%増）で過去最高となった。これは、直接消費用が前年度に比べて3.7%増加し、初めて21千トンに達したことが主な要因である。

ナチュラルチーズの輸入量は、前年度を大きく上回り、過去最高の228,754トン（前年度比8.1%増）となった。

これは、直接消費用が前年度に比べて14.1%も増加し、159,900トンとなったことによる。

プロセスチーズの総供給量は120,141トン（前年度比2.8%減）で、うち国産が110,832トン（同2.5%減）、輸入が9,309トン（同6.2%減）であった。また、プロセスチーズ原料用ナチュラルチーズの国産が前年に比べて1.3%増加したのに対して、輸入は同3.8%減少した。

わが国のチーズ供給構造

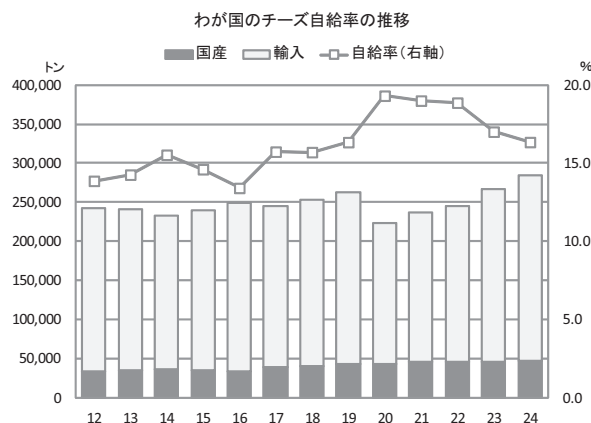
		単位：トン、%				
		20	21	22	23	24
国産ナチュラルチーズ生産量		(100.3)	(104.5)	(102.7)	(98.2)	(102.4)
		43,082	45,007	46,241	45,425	46,525
プロセスチーズ原料用		(92.7)	(110.5)	(104.4)	(93.8)	(101.3)
		22,878	25,278	26,385	24,745	25,071
直接消費用		(110.6)	(97.6)	(100.6)	(104.1)	(103.7)
		20,204	19,729	19,856	20,680	21,454
輸入ナチュラルチーズ総量		(81.1)	(106.7)	(103.6)	(111.7)	(108.1)
		171,382	182,944	189,466	211,697	228,754
プロセスチーズ原料用		(88.9)	(105.4)	(103.5)	(111.0)	(96.2)
		59,048	62,237	64,439	71,547	68,854
直接消費用		(77.5)	(107.5)	(103.6)	(112.1)	(114.1)
		112,334	120,707	125,027	140,150	159,900
プロセスチーズ総供給量		(90.8)	(106.6)	(103.9)	(106.0)	(97.2)
		105,287	112,184	116,549	123,552	120,141
国内生産量		(89.9)	(106.8)	(103.8)	(106.0)	(97.5)
		96,673	103,268	107,172	113,625	110,832
輸入数量		(102.1)	(103.5)	(105.2)	(105.9)	(93.8)
		8,614	8,916	9,377	9,927	9,309

資料：農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ
注）（ ）内の数字は前年度比である。

平成24年度のチーズの国内総需要量は、前年度を大きく上回る284,588トン（ナチュラルチーズ供給量＋プロセスチーズ輸入量）と、過去最高となった。これは、直接消費用ナチュラルチーズの需要量が前年に比べて12.8%も増加したことによるが、チーズ需要量全体に占める国産の割合（チーズ自給率）は前年度から0.7ポイント低下し、16.4%となった。

図では、わが国のチーズ自給率の推移を示している。平成19年度までは、総需要量の増加に対応して国内生産量が増加し、自給率が増加傾向で推移した。20年度は総需要量の減少により輸入量が激減し、結果として、自給率が増加した。21年度以降は、需要の回復にともない輸入量が増加し、自給率は減少傾向に転じている。以上のことから、わが国のチーズ自給率は、「国内生産

量の変化」よりも「総需要量の変化」によって大きな影響を受けていると言える。



資料：農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ
注）国産はナチュラルチーズ生産量で、輸入にはプロセスチーズを含む。